

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

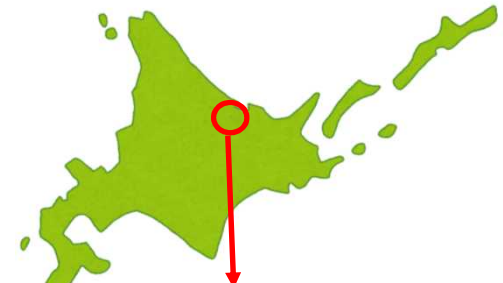
取組の概要

取組の概要 : 小麦の集出荷コスト削減の推進
計画作成主体 : 遠軽町農業再生協議会
対象品目 : 小麦 (産地面積: 675ha)
主な取組主体 : えんゆう農業協同組合
成果目標 : 集出荷コストの10%以上の削減
助成金の活用 : 整備事業 (穀類乾燥調製貯蔵施設)
状況

ポイント

穀類乾燥調製貯蔵施設等の再編整備及び計画的かつ省力的な乾燥調製体制の整備により、集出荷コストを51%以上の削減を実現。

地区の概要



北海道

遠軽町 (遠軽、生田原、丸瀬布地区)
湧別町 (上湧別地区)

産地の現状と目標

現状: H26年度

- 作付面積: 604ha (出荷数量: 3,044t)
- 小麦の乾燥調製貯蔵を4つの施設で実施。括弧は取扱数量
 - ・遠軽 (776t)
 - ・生田原 (258t)
 - ・丸瀬布 (218t)
 - ・上湧別 (1,792t)
- 運営コスト
遠軽: 7,128千円、生田原: 5,191千円、丸瀬布: 3,091千円、上湧別: 19,601千円

目標: H30年度

- 作付面積: 675ha (出荷数量: 3,752t)
- 施設再編により、小麦の乾燥調製貯蔵を【遠軽】に集約
- 運営コスト
遠軽: 16,955千円

推進体制

地域の関係者 (遠軽町、湧別町、えんゆう農業協同組合、農業改良普及センター等) が連携し、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

農業者における小麦運搬等作業の減少により、余剰労働力を早出し玉ねぎの安定生産及び夏採立茎アスパラガスの生産への転換、小麦の作付面積拡大により、農業者の所得向上を図る。



事業効果

遠軽・生田原・丸瀬布・上湧別の各地区施設を、再編整備により遠軽に集約することで、施設運営による経費負担が大幅に削減されるとともに、品質の平準化が図られる。

加えて、生産者が自ら行っていた搬入・乾燥作業が軽減されることで、早出し玉ねぎの安定生産や夏採立茎アスパラガス生産への転換、小麦の作付面積の拡大が期待でき、産地の収益力向上につながる。

~施設の集出荷コスト~

